

開催日：令和2年7月29日（水）

場所：三重県立美術館 会議室1、2

令和2年度第1回三重県立美術館協議会 開催結果

平成31年度（令和元年度）事業について

- ・美術館の活動は、来館者数や展示だけで評価されがちであるが、調査研究や教育普及など様々な観点から評価されるべきである。
- ・Twitterで情報を発信しているが、140文字の中で表現するのはもったいないし物足りない。Facebookの活用も考えてはどうか。
- ・Twitterのフォロワーは多いのに、いいね、リツイートが少ないように感じる。もう少し周囲に働きかけるなどしてはどうか。
- ・三重県高等学校美術・工芸研究会のメンバーが三重県立美術館で鑑賞教育について学んだが、その経験が今回のコロナ禍における臨時休校中のオンライン授業でも活かしたと考えている。
- ・関根正二展を見学し、作品に魂が震えたという生徒がいた。三重県立美術館は深く学習できる所なので、今後も生徒を連れてきたいと考えている。
- ・今回、オンライン授業で、他府県の美術館のホームページを参考にした。そのまま教材として使えるものもあった。そういうものが三重県立美術館のホームページにもあれば楽しめると思う。

令和2年度事業について

- ・国の方針もあり、オンライン授業を大きく進めていくという方向が出されていくように聞いているので、学校等のアイデアをもらいながら、それを上手く活用できないかと思う。
- ・新型コロナウイルスの感染予防のため、少人数で予約をしてじっくりとギャラリートークなどが聞けるような企画をすとか、鑑賞の仕方を変えていく必要があるのではないかと思う。
- ・オンラインでリアル体験できない部分をどう補っていくかということも重要であるが、美術館にはこの場に訪れてもらうことを基本にしながら、リアル体験をいかに豊かに作っていくか、子どもたちに保障していくかという観点から努力をお願いしたい。
- ・調査研究などについても、進捗状況などがわかるように具体的に示していただきたい。